

おう吐物の処理・消毒方法



【事前に準備しておくもの】

- ・塩素系消毒薬(次亜塩素酸ナトリウム)
- ・使い捨てマスク、手袋、エプロン
(靴を覆う非浸透性のシューカバーや袋)
- ・ビニール袋
- ・ペーパータオル、新聞紙など
- ・消毒薬を薄める容器
(ペットボトル、バケツなど)
- ・手洗い用石けん



※手袋は二重で着用

①おう吐が起ったら、まずは換気する



②消毒薬を作る

5%塩素系消毒薬を50倍に薄めると0.1%(1000ppm)の消毒薬になります。
※詳しくは裏面参照



※消毒薬を薄める容器は事前に消毒薬と水を入れるところまでの印や薄める目安を記載しておきましょう。

③消毒薬を浸した新聞紙などをおう吐物に被せる



④おう吐物を広げないように中心に向かって拭き取る



⑤拭き取ったおう吐物を二重にしたビニール袋に捨てる



⑥消毒薬を浸した新聞紙などをおう吐物から3m以上の範囲に被せる



※おう吐物は3m以上飛んでいる場合があるので広い範囲を消毒します。

⑦消毒薬を浸したペーパータオルなどで3m程度の範囲を消毒する



※汚染を広げないため、奥から手前へ一方向に拭きます。

⑧汚染域を出る時は消毒薬を浸した新聞紙などで靴底を消毒する



※シューカバー等を使用する場合は、汚染域を出る際に都度交換しましょう

⑨ビニール袋に消毒薬を入れる



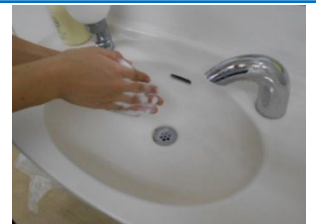
⑩ビニール袋の口を縛り密閉し、廃棄する



⑪外側を内側にして手袋を外す



⑫作業終了後は手洗いをする



※可能な限り肘まで洗いましょう

・汚物を取り除いた後、汚染したと考えられる場所は0.1%消毒薬で消毒しましょう。
・周囲の壁、患者が触れるところ(手すり、ドアノブ、スイッチ、トイレ、レバー、手洗いの水栓など)は0.02%消毒薬で消毒しましょう。

塩素系消毒薬(希釈液)の作り方

		希釈液濃度			
		0.02%(200ppm)		0.1%(1000ppm)	
		希釈方法		希釈方法	
原液濃度	1%	50倍	水1L+原液20mL	10倍	水1L+原液110mL
	5%	250倍	水1L+原液4mL	50倍	水1L+原液20mL
	6%	300倍	水1L+原液3.3mL	60倍	水1L+原液17mL
使用場所		器具等のつけ置き、ドアノブ、手すり等		便や吐物が付着した床やおむつ等	

※市販の塩素系消毒剤は5～6%が多い

塩素系消毒薬(希釈液)は簡単に作れます！

【参考例】

濃度6%の原液と1.5L(1500mL)のペットボトルを使用して消毒薬を作る場合

●0.02%(200ppm)を作る目安

→ペットボトルキャップ1杯の原液(計4.95mL)をペットボトルに入れ、水を加えて1.5L(1500mL)にする。

●0.1%(1000ppm)を作る目安

→ペットボトルキャップ5杯強の原液(計25.5mL)をペットボトルに入れ、水を加えて1.5L(1500mL)にする。

※ペットボトルのキャップ1杯は約5mL

次亜塩素酸ナトリウムとは？

- ・塩素系漂白剤の成分です。
- ・消毒効果を保つため、原液は遮光のできる場所に保管してください。
- ・希釈した消毒薬は時間とともに消毒効果がなくなるので、作り置きはせず、消毒時にその都度作ってください。
- ・金属材質を腐食することがあるので、消毒後は速やかに水で洗うか拭き取ります。
- ・衣服やじゅうたん等に使用すると色落ちすることがあります。
- ・使用する時は十分な換気をしましょう。酸性の洗浄等と混ぜると塩素ガスが出るがあるので併用しないでください。
- ・皮膚荒れを起こしてしまうため、手指などの消毒には使えません。
- ・容器に書いてある注意書きをよく読んで使用しましょう。